

いわき農林事務所ニュース

2006年 6月号

活動状況

○いわき市宮牧野で放牧が開始されました

いわき市宮の芝山牧野が5月1日に、荻牧野が5月12日に開牧されました。例年に比べて牧草の生育が遅れたことから昨年より1週間程度開牧がはじまりましたが、当日は、さわやかな青空のもと、芝山牧野は50頭、荻牧野37頭の乳用牛や肉用牛が青々と生い茂った牧草の中に放牧されました。市宮牧野はいわき市内外の畜産農家に利用されており、事前に家畜衛生検査と疾病予防ワクチン接種を済ませ、当日は簡単な臨床検査を行い、牧野に放たれました。

放牧された牛たちは、澄んだ空気、美味しい牧草、広々とした牧野といった恵まれた自然環境の中で、足腰の強い健康な家畜にすくすくと育っていき、11月中旬ごろに下牧し畜産農家の元に帰って行きます。

また、放牧期間中は事故や疾病の未然防止のため、3週間隔で健康検査やダニ駆除が実施されます。



放牧された牛たち

○農薬適正使用推進会議が開催されました

いわき地方農薬適正使用推進会議（議長・小山正雄いわき農林事務所長）が、5月23日に県いわき合同庁舎で開催されました。会議には、協議会構成員の他、JAいわき市の営農経済センター長も参加し、食品衛生法の改正で5月29日から施行されるポジティブリスト制度への対応を協議しました。

協議では、同制度の施行に伴い、さらなる農薬の適正使用が求められることから、関係機関の連携や、現地における指導体制を一層強化するとともに、万が一農薬のドリフトや残留基準違反が発生した場合には、迅速な対応できる体制を整えました。

また、同制度への対応で重要となる農薬の飛散防止技術と農薬の適正使用指導の強化を図るため、JAを中心とする生産者団体等の生産組織への指導を徹底することを確認しました。特に、いわき市はナシの産地であることから、防除作業にはスピードプレーヤが使用されるため、周辺作物への農薬飛散による残留事故に細心の注意を払うよう指導の徹底を図ることを確認しました。



関係者による協議の様子

○ 有機栽培技術実証ほの田植えが行われました

5月23日、いわき農林事務所が本年度設置した水稲の有機栽培実証ほにおいて田植えが行われました。

4月末の代かき時に米ぬかを散布していた田んぼは、水田土壤にトロトロ層ができ、田植え前にはイトミミズなど田んぼの生き物が多く発生していました。

プール育苗で育てられた苗は根張りも旺盛で、本田での順調な生育が期待されます。田植え後は、抑草対策として5月24日に屑大豆を、同26日に米ぬかを散布しており、6月12日現在、病害虫の発生もなく、生育は順調です。

また、いわき農林事務所では、有機栽培等の技術の普及や産地化を推進していくため、5月30日に「いわき地域有機農産物等普及推進会議」を設置し、6月15日には第1回目の会議と実証ほでの現地検討を行いました。

今後、定期的な開催により、有機農産物等を活かした農業の振興を図っていくこととしています。



写真1 田植え (5/23)



写真2 田植え後の稲 (5/24)

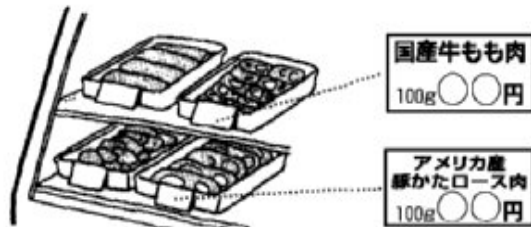


写真3 屑大豆散布 (5/24)



写真4 生育状況 (6/8)

○ 食品表示ウォッチャー委嘱状交付式が行われました



5月25日、いわき地方における平成18年度福島県食品表示ウオッチャー委嘱状交付式を県いわき合同庁舎において開催しました。

食品表示ウオッチャーは、満18歳以上の福島県内に居住している方を対象に募集し、今年度は県内で60名、いわき地方では14名を食品表示ウオッチャーとして委嘱しました。食品表示ウオッチャーは、JAS法に基づく食品品質表示基準がスーパー等の食品販売店舗で守られているかどうかを日常の買い物の際にモニタリングします。

この食品表示ウオッチャー制度は平成15年度から実施されており、昨年度は県内で522店舗に対してモニタリングを実施し8割以上の店舗においてほとんどの食品に適切な表示があることが報告されています。

委嘱状の交付が行われた後は引き続き研修会が実施され、食品表示ウオッチャーの活動内容やJAS法に基づく食品表示についての理解を深めていただきました。

○ 農業集落排水処理施設「渡辺地区」通水式が行われました

いわき市渡辺町「上釜戸、中釜戸、松小屋」の3集落が待ち望んだ農業集落排水整備事業は、平成12年から工事を進めてきましたが、処理施設工事も含め平成18年3月に完了する運びとなりました。

5月28日（日）午前11時から、いわき市渡辺町松小屋字榎株地内の「渡辺地区農業集落排水処理施設」において、関係者出席のもと盛大に通水式が行われました。

通水神事後、関係者によるテープカットが行われた後、通水運転が始まり、念願の処理場の供用開始となりました。

農業集落排水施設が整備されたことにより、農業用水に生活排水や汚水が混ざることが解消され、農業用水の水質保全が図られます。また、トイレなどの住環境も快適になり農業集落における生活環境の改善も大いに期待されます。



関係者によるテープカット



完成した渡辺地区処理場

【 農業集落排水事業渡辺地区事業概要 】

計画処理戸数	138戸
計画処理人口	570人
処理数量	154m ³ /日
管路延長	10,838m
事業費	959,710千円
工期	平成12年度～17年度
供用開始	平成18年4月

○ 渡辺小の田んぼの学校 その3

いわき市渡辺町の渡辺小学校において「田んぼの学校」が、5月11日と5月23日に行われました。

5月11日は、5年生16名が「生きもの調査と草取り」行いました。まず最初にビオトープゾーンにどんな生き物が生息しているのかを調査しました。児童達は、大小様々な網で、生き物を探しながらビオトープの水をすくい上げては、「いたいた!」「いないなあ」などと大きな歓声をあげていました。

10分間という短い時間でしたがオタマジャクシやザリガニ、カエル、などが捕れました。

また、顕微鏡で観察してみるとミスダニやミジンコも確認できました。

続いて、土の中や土の表面に、生きものがどのくらいいるのかを調査し、多くのイトミズやユスリカが確認できました。確認した生きものは全長5mm程度で、竹串で1匹ずつ数えるという根気のいる作業となりましたが、児童達は飽きずに熱心に取り組んでいました。その後、児童達は田んぼに1列に並んで草取りを行い、次回の田植えに備えました。草取りの大変さを感じてもらおうと考えていましたが、児童達はあっという間に田んぼをきれいにしていました。



田んぼの生物捕獲!



顕微鏡で観察!

5月23日は、全校児童115名が、うるち米ともち米の「田植え」に挑戦しました。うるち米は「ふくみらい」、もち米は「まんげつ」という品種を、手植えました。目印をつけた縄を使い、全員が1列植えたら次の列へ進むという方法で行いました。「おーい、全員植えたかー?」「まだ待ってー」などの声の掛け合いがあり、昔ながらの田植えを楽しみました。田んぼの中でドロに足を取られた児童もいましたが、派手に転ぶこともなく植えることができました。

その後、除草に効果があるとされる米ぬかペレット100kgを、田んぼ(10アール)に播きました。それぞれがバケツを持ち、田植えした区域の外側から、手で投げ入れました。自分のバケツが空(から)になると、「もっと、ちょーだい!」「たくさん、ちょーだい!」と児童達は積極的に作業を行っていました。

次回は、雑草が繁茂してくるだろうと予想される6月28日に、再度「草取り」を行います。今度は大変だと思うのですが、児童達はどう感じるのでしょうか?



一列に並んで田植え

○福島県山地防災ヘルパー講習会が開催されました

5月30日、福島県山地防災ヘルパー講習会がいわき新舞子ハイツで開催され、31日には平成17年度に治山事業を実施した箇所において、現地研修会も行われました。

福島県山地防災ヘルパーは、山地災害から県民の生命や財産等を守るために、県が実施する県内の山地災害に関する情報収集について、自主的に協力してくれるボランティア活動者であり、現在の認定者は県内で111名、うちいわき市内で11名となっています。

30日は、福島県治山対策グループの鈴木主任主査から平成17年度に県内で発生した林地被害状況の説明が行われた後、福島地方気象台の遠藤気象解説官より過去に発生した災害の事例をもとに大雨に対する心構えの講習がありました。

また、31日には、平成16年度から地域防災対策総合治山事業により施工しているいわき市四倉町字西三丁目地内と、平成15年度から復旧治山事業により施工し昨年度完成したいわき市小名浜野田字八合地内において現地講習会が行われ、いわき農林事務所森林林業部の担当職員から事業の概要について説明を行い、治山事業を含め山地災害に対する理解を深めていました。



現地講習会の様子

トピックス

○ 担い手・集落営農支援センターが開所されました

5月8日、JAいわき市本店で「担い手・集落営農支援センター」の開所式が行われました。

支援センターは、平成17年10月に決定した「経営所得安定対策等大綱」を踏まえ、緊急の課題である認定農業者の育成・確保、集落営農の確立等を図るためJAいわき市本店内に設置されました。

体制は、JAいわき市の2名とともに、業務の円滑な推進を図るため、5月1日新たにいわき市に設置された「いわき市ふるさと農業支援センター」から3名が派遣されJA、行政の5名の職員が連携を図りながら業務を行うこととなりました。

開所式では、JAいわき市庄司一郎代表理事組合長が「支援センターを拠点に担い手育成、集落営農推進に努めたい」とあいさつし、いわき市の村田助役、いわき農林事務所小山所長等による祝辞が述べられた後、JA本店入り口に看板が設置され、ワンフロア化による業務がスタートしました。



担い手育成・集落営農の拠点となる支援センター

○ 古式ゆかしく 献穀米の御田植式が行われました

5月27日、いわき市渡辺町で、新嘗祭に献上する献穀米の御田植式が古式ゆかしく行われました。いわき市からの献穀は10年ぶりです。

多くの人々やテレビカメラが見守る中、厳かな神事に引き続き、早乙女姿の女性5人が本県初の水稲オリジナル品種「ふくみらい」の苗をていねいに植えました。

その後、参加した地域の方々が、良い品質の米が献上できるよう祈りながら田植えを行いました。会場では渡辺小学校の児童が豊年太鼓を勇壮に演奏し、雰囲気盛り上げました。

献穀者の若松孝臣さんは、「おいしいサンシャインいわき米を献上できますことは、この上ない喜びです。いわき米の名を高めるよう栽培に取り組みます。」と話していました。



早乙女姿で御田植え

◀ もどる

すすむ ▶

[[▲Top](#) | [福島県トップページ](#) | [いわき農林トップページ](#)]